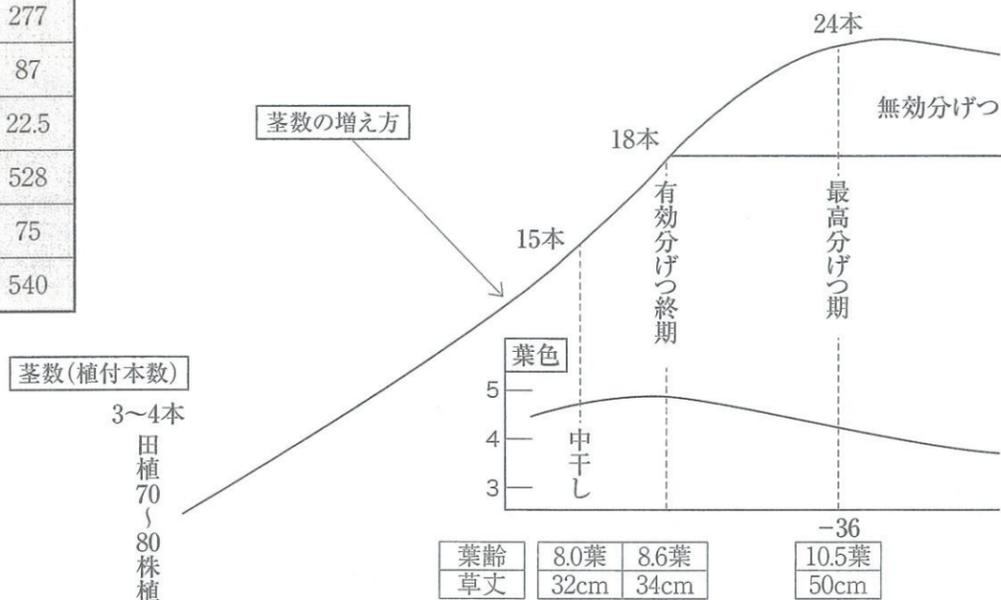


コシヒカリの栽培

ごよみ(JA米生産基準)

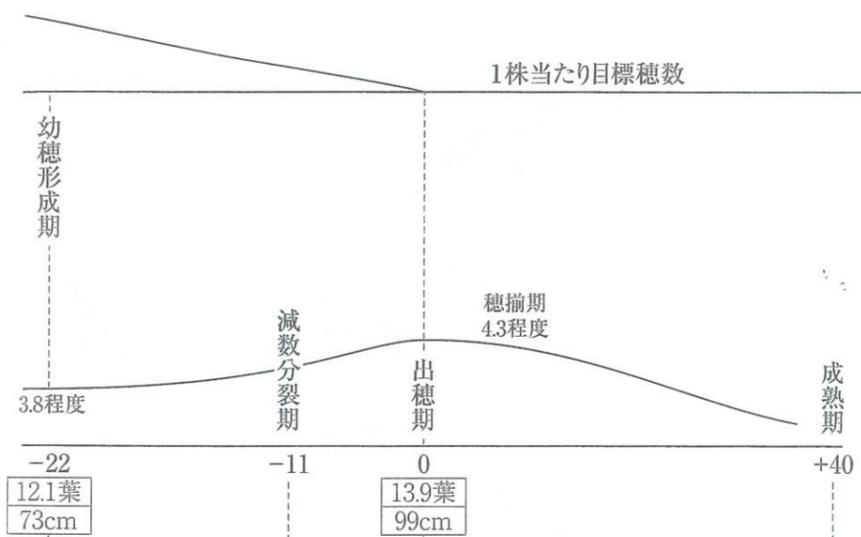
収量構成	目安
m ² 当たり株数(株)	22
1株当たり穂数(本)	18
m ² 当たり穂数(本)	396
平均1穂粒数(粒)	70
m ² 当たり粒数(百粒)	277
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5
m ² 当たり最高茎数(本)	528
有効茎歩合(%)	75
10a当たり収量(kg)	540

	幼穂形成期 (幼穂2mm時)	1回目穂肥時期 (幼穂15mm時)
草丈	72cm	82cm
茎数	470本/m ²	430本/m ²
葉色	3.8	3.6



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生育期区分		育苗期	田植期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	稲体組織充実期
水管理		深水管理	浅水管理	溝切り、中干し	溝切り、中干し	溝切り、中干し	間断かん水
栽培管理のポイント	<p>浸種を徹底してよい苗をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 田植にあわせた育苗計画を立て老化苗にしない。 種籾は1箱当たり120gを播き、苗箱は10a当たり22枚、24枚を目安とする。 浸種初日は水温12.5℃を確保し芽出しを確実に行う。 <p>適切な田植えに努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 高密度播種苗の場合は使用量を遵守する。(50g/100g/箱、1kg/10a) 苗箱施肥はブロードバンド箱粒剤を均一に散布する。(50g/箱) 1株の植付本数は3〜4本、3cmの浅植とする。 倒伏軽減の為、施肥量を厳守する。 荒天時の田植は避ける。 株数は坪当たり70〜80株植えとする。(茎数の取れにくい場合は80株植え) 高湿度播種苗の場合は使用量を遵守する。(50g/100g/箱、1kg/10a) 苗箱施肥はブロードバンド箱粒剤を均一に散布する。(50g/箱) <p>良質な茎を早く確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> 活着後は浅水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分けつを促進させる。 田植後4日間は浅水管理を行い、活着を早める。 <p>適切な中干しの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 溝切りは遅れずに、6月上旬に行う。 高温により藻が発生したり田がワク場合には水の入れ替えを行う。 早期追肥は田植後7日以内に施す。(全層) 根の発育を促すため、2日程度の軽い田干しを行う。 活着後は浅水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分けつを促進させる。 田植後4日間は浅水管理を行い、活着を早める。 中干しは溝切り後直ちに開始する。 中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 とした地耐力をつける。 中干しを適切に行い、出穂後の湛水管理に耐えられるようにしっかりと 中干しは溝切り後直ちに開始する。 <p>幼穂形成期以降は飽水管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 畦畔・農道の草刈りを徹底する。 						

① 健苗育成(十分換気を行い硬い苗を作る)
② 初期茎数の確保(茎数の取れにくい場合は80株)
③ 確実な中干しで適切な葉色に誘導する。 (幼穂形成期に葉色3.8程度)
④ 出穂後20日間の湛水管理の徹底
⑤ 収穫まで落水は急がない



月日	7月	8月	9月	10月
生育期区分	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫期
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	土づくり
栽培管理のポイント	<p>穂肥は生育に応じて適正量を施用する(分施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目の穂肥は幼穂長15mm、葉色3.6で行う。 2回目は1週間後に行う。 <p>適切な葉色に誘導する</p> <ul style="list-style-type: none"> 穂揃期は4.3程度の葉色を目標とする。 出穂7日前の葉色が4.0以下の場合には直ちに追肥を7kg/10a施用する。 <p>いもち病・カメムシ類防除の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本防除を徹底する。 <p>稲体の活力維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制の為、出穂から20日間の湛水管理を徹底する。 <p>落水を急がない</p> <ul style="list-style-type: none"> フェーン時は事前に灌水して、品質低下を防ぐ。 刈取り予定日の5〜7日前までは間断かん水を行う。 <p>籾の黄化率85〜90%程度が刈取り時期</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅れないようにする。 刈取り適期表示を目安に刈取りを行い、胴割れが発生しやすいので刈 <p>地力増強に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑草が多かった場合は、刈取後に雑草に反応した除草剤を散布する。 稲わらの腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。 土壌診断に基づき土づくりの実施。 			

	目安
田植日	5月15日
やや深水管理	5月15日〜5月19日
初期除草剤散布	5月15日〜5月17日
体系是正剤散布 (初期剤使用の場合)	5月25日〜5月29日
体系是正剤散布	5月15日〜5月23日
浅水管理	5月20日〜6月4日
軽い田干し (2日程度)	5月22日〜5月24日
落水(軽い田干し)	6月5日
溝切り	6月6日〜6月10日
中干し	6月11日〜6月20日
間断かん水	6月21日〜7月10日
飽水管理	7月10日〜7月31日
湛水管理(出穂期)	8月1日〜8月21日
間断かん水	8月22日〜9月2日
落水	9月3日〜

※中後期除草剤は残草の種類を見て随時散布する